

短 報

アマミサソリモドキの岡山県への移入例
(クモガタ綱, サソリモドキ目, サソリモドキ科)

鶴崎展巨¹⁾・奥島雄一²⁾

Occurrence of a Whip Scorpion, *Typopeltis stimpsoni* (Arachnida, Thelyphonida, Thelyphonidae) in Okayama Prefecture, Honshu, Japan

Nobuo TSURUSAKI¹⁾ and Yûichi OKUSHIMA²⁾

アマミサソリモドキ *Typopeltis stimpsoni* (Wood, 1862)は、沖縄本島および久米島以北の琉球列島および九州南部に自然分布するクモガタ綱サソリモドキ目サソリモドキ科の大型節足動物である(吉倉, 1966; 下謝名, 2015; Karasawa *et al.*, 2015)。生息地では少なくとも日中は林床の倒木下や石下などに潜り込んでおり人目につきやすい動物では

ないが、鞭状部(尾部)を除いても長さが40 mmほどに達する大型の体と、鉗状に変形した大型の触肢および腹部末端にある体長とほぼ同長の鞭状部の存在により倒木や石をおこすなどして適切に探索すれば生息確認は比較的容易である。

本種の自然分布の北限はながらく熊本県の天草下島(天

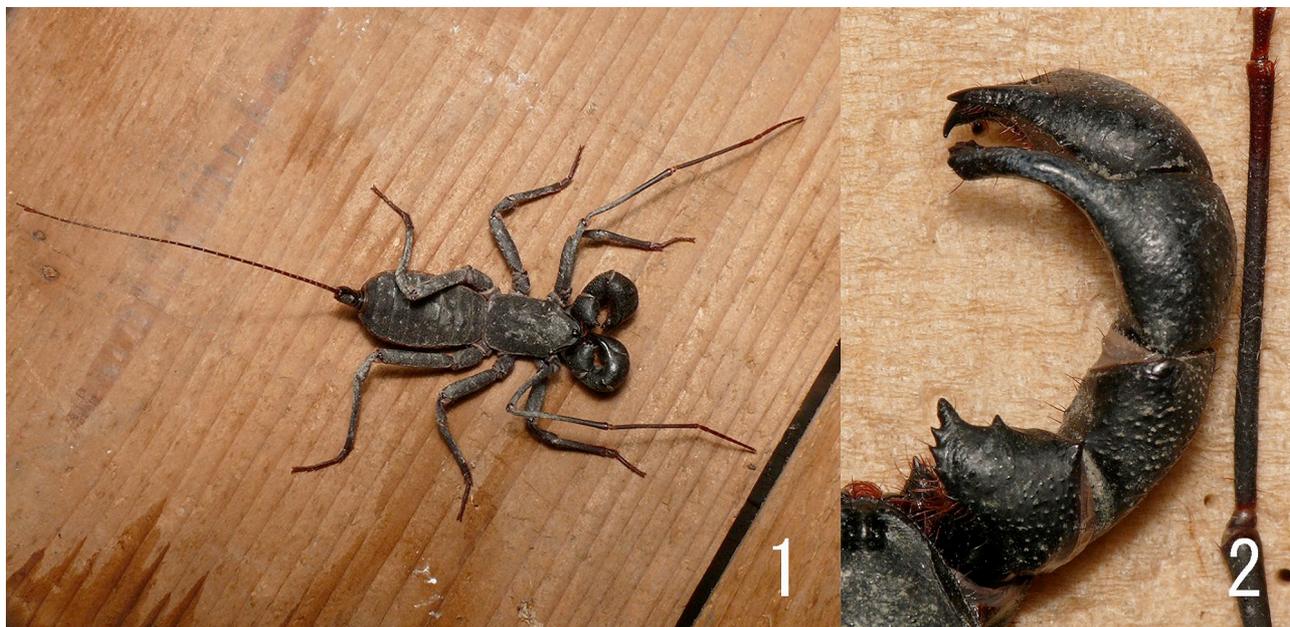


図 1-2. アマミサソリモドキ (♂, 岡山県備前市産) . 1, 生時の様子; 2, 右触肢(背面) . *Typopeltis stimpsoni* (Wood) from Bizen City, Okayama Pref., ♂. 1, A living individual; 2, right pedipalp (dorsal).

1) 鳥取大学地域学部地域環境学科 〒680-8551 鳥取市湖山町南 4-101
Faculty of Regional Sciences, Tottori University, Tottori, 680-8551 Japan
ntsuru@rs.tottori-u.ac.jp

2) 倉敷市立自然史博物館 〒710-0046 倉敷市中央 2 丁目 6-1
Kurashiki Museum of Natural History, 6-1, Chûô 2-chôme, Kurashiki, Okayama, 710-0046 Japan
musoku@city.kurashiki.okayama.jp

草市)と考えられてきたが(吉倉, 1966), 1970年代以降, 東京都八丈島(梅沢, 1973), 愛媛県今治市(青木・杉山, 1995), 高知県幡多郡大月町(中山, 2002), 兵庫県神戸市(内山, 2004), 福岡県糸島市(今泉・唐沢, 2015)などで継代繁殖をしているとみられる小集団が見つまっている。これらはいずれも九州南部の既知分布域からは遠く離れて孤立した小規模集団であり, その多くが発見当時から植物の移植などともなう人為的移入であることが疑われており, 国立環境研究所の「侵入生物データベース」でも国内移入の事例として取り扱われている。この推測は最近, ミトコンドリアのCOI遺伝子を使用してアマミサソリモドキと, 先島諸島と台湾に分布するタイワンサソリモドキ *T. crucifer* Pocock, 1894の日本各地の集団の系統関係を解析した唐澤らの研究によって検証されたが(Karasawa *et al.*, 2015), その結果にもとづき, 唐澤らは八丈島や本州(東京都港区, 和歌山県有田市, 神戸市, 山口県下関市)や四国(香川県高松市, 愛媛県今治市)で発見された個体は, 奄美大島の集団と同じ系統枝に入ることから, 奄美大島の集団が起源で, 観葉植物などの持ち込みにもなって偶発的に移入されたものである可能性(移入地である八丈島などからの再移植の可能性も含む)が高いと論じている。この研究では高知県大月町の集団は扱われていないので, 地理的位置を考慮すると大月町の集団の起源については海流による自然分散である可能性も排除されない。

さて, 筆者らは, これまでに記録のない岡山県にて移入とみられる本種個体を確認しているので, 記録にとどめておきたい。

1♂(成体), 岡山県備前市日生町日生, 25.IX.2015, 竹本篤紀採集, 倉敷市立自然史博物館保管(登録番号KURA Iv 11732, 図1-2)。

本標本は, 竹本氏が自宅浴室で生きた本個体を発見し, 森昌樹氏を通じて倉敷市立自然史博物館に届けられたものである。この個体は雄の成体で, 触肢(図2)の形態を既存文献(吉倉, 1966; 下謝名, 2015)に照らして, 確実に本種と同定できた。採集者の竹本氏は移入経路にまったく心当たりがないとのことである。これがまったく単独で偶発的に持ち込まれた個体なのか, それとも, その周辺に

繁殖集団が存在するのかについて早急の確認が望まれる。

謝辞

報告にあたり, 貴重な標本と情報の提供にご協力いただいた備前市の森昌樹氏と竹本篤紀氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 青木淳一・杉山 隆, 1995. 愛媛県に生息するサソリモドキについて. [講演要旨]. *Acta Arachnologica*, **44**(2): 193.
- 今泉 晃・唐沢重孝, 2015. 福岡県におけるアマミサソリモドキの発見. *Edaphologia*, **96**: 19-20.
- Karasawa, S., S. Nagata, J. Aoki, K. Yahata, and M. Honda, 2015. Phylogeographic study of whip scorpions (Chelicerata: Arachnida: Thelyphonida) in Japan and Taiwan. *Zoological Science*, **32**: 352-362.
- 国立環境研究所, 侵入生物データベース. (<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>) (2015年9月30日閲覧).
- 中山宏一, 2002. アマミサソリモドキ. p. 272. In: 高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会(編)高知県レッドデータブック〔動物編〕—高知県の絶滅のおそれのある野生動物. 470 pp. 高知県文化環境部環境保全課.
- 下謝名松栄, 2015. クモガタ綱サソリモドキ目. pp. 721-723. In: 青木淳一(編著)日本産土壌動物 分類のための図解検索【第2版】. 1969 pp. 東海大学出版部, 秦野市.
- 内山裕之, 2004. サソリモドキが神戸で繁殖! pp. 205-207. In: 兵庫の生きものたち編集委員会(編)兵庫の生きものたち. 243 pp. 神戸新聞総合出版センター, 神戸.
- 梅沢幸治, 1973. 伊豆八丈島に発生を見たアマミサソリモドキ. *植物防疫*, **27**(7): 289.
- 吉倉 眞, 1966. タイワンサソリモドキとアマミサソリモドキについて. *Atypus*, **39**: 1-9.